

毛利家館跡

徳山藩主の館は、城の構えでなく、堀も濠（ごう）もないので「御館」といわれていた。その敷地は現在の文化会館・山口放送・祐綏神社の一部一帯にわたった地域であったが、明治維新の改革とともに十代元功は東京に引っ越し、今の祐綏神社の辺りに庭園の一部が残されていただけで、全部畑であった。

明治26年ごろ敷地の一角に仮御殿が造られ、元功一家が帰郷してここに住み、その用達所は御蔵本にあった。

大正の初めごろから御殿の造築を始め、ほとんど完成した大正5年3月23日、ブリキ職人の不注意から全焼したが直ちに再建に取りかかり、大正8年に完工した。

昭和20年7月26日の空襲で再び全焼したが、御蔵本の別邸は焼失を免れたのでここに移住した。焼跡は放置されたままになっていたので、市が野球場として借り受け、その後山口放送・文化会館として利用している。

板橋跡

藩政時代桜並木の入り口は、左右両側が堀の形をしており、板の橋が架けてあったので、板橋といっていた。萩城の入り口にも板橋があり、これは橋を焼き落として敵の進入を防ぐように造られたといわれる。

